令和６年１月２７日（土）　デーリー東北

三戸高と青森大が連携

大学の専門教育導入

全国生徒募集PRへ支援も

青森県立三戸高（豊川武伸校長）と青森大（渋谷泰秀学長）は26日、高大連携に関する協定を結んだ。高校の教育活動に大学の教員やノウハウを導入することで、指導力や魅力の向上を図る。オンラインやIT技術を活用し、遠距離のデメリットを軽減。生徒の全国募集PRに向け、三戸高に本年度創設されたクリエイティブ部の活動充実にも積極的に取り組む。（上條哲洋）

協定調印式で手を取り合う（右から）渋谷泰秀学長、豊川武伸校長、松尾和彦町長＝26日、青森県立三戸高

青森大が高大連携協定を締結するのは14校目で、三八地区では初。三戸町とは2017年に地域活性化へ向けた包括的な連携協定を締結しており、高校と立地自治体の双方と連携協定を結んだ。

26日は三戸高で調印式が開かれ、豊川校長と渋谷学長が協定書を取り交わした。立会人として松尾和彦町長が同席した。

今回の協定締結は青森大側からの提案という。渋谷学長は会見で、三戸高が生徒の全国募集など意欲的な活動を展開している点を評価し、「活力がある高校に協力することは大学の活力にもなる」と強調。同部については「大学の専門性のある教員が関わることで、さらに発信力を高めることができると思う」と支援に前向きな姿勢を見せた。

豊川校長は「協定は生徒が大学進学を考える際の助けになる。高校の魅力も高まるので生徒数確保につなげたい」と期待。

両校の卒業生である松尾町長は「三戸高存続へ向けて協力や交流を進め、生徒に可能性を示してくれたら」と述べた。